

先日は暑い中「てがたん」にご参加いただき、ありがとうございました。「てがたん」の観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧下さい。次回8月の「てがたん」は8月11日(土)で「空をめざした生き物たち」がテーマです。是非ご参加下さい。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→ミニ手賀沼→水の館
- 観察日時/天気 2018年7月14日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数 25人(一般12人、子ども13人)
- 市民スタッフ 7人(石原直子、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、寒江洋次、弘貴さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 1人(染谷実紀)

観察記録 — 7月に観察した生き物の記録 —

【鳥類】

カモ科：カルガモ/ハト科：キジバト/クイナ科：オオバン/カウセミ科：カウセミ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/外来種や家禽：ドバト

【魚類】

コイ科：ギンブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、タモロコ、ツチフキ/ハゼ科：ヨシノボリの仲間/カダヤシ科：カダヤシ

【甲殻類】

テナガエビ科：スジエビ

【昆虫・クモ】

甲虫の仲間：カナブン、シロテンハナムグリ、ラミーカミキリ/チョウ・ガの仲間：ナミアゲハ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ウラギンシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、アカボシゴマダラ、コムラサキ、オオスカシバ/トンボの仲間：アオモンイトトンボ、ウチワヤンマ、コサナエ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ/バッタの仲間：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、トノサマバッタ、コバネイナゴ/キリギリスの仲間：ウスイロササキリ、ヒメギス/コオロギの仲間：エンマコオロギ、タンボコオロギ、キンヒバリ/カメムシの仲間：アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ/クモの仲間：コガネグモ、アシナガグモ、ワカバグモ

【植物(花)】

アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ/ユリ科：コオニユリ/ガマ科：ヒメガマ/カヤツリグサ科：ヤマイ/イネ科：オオエノコログサ、スズメノヒエ/ツユクサ科：ツユクサ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/タデ科：エゾノギシギシ、ギシギシ/ブドウ科：ヤブカラシ/アカバナ科：アカバナ/オトギリソウ科：キンシバイ/マメ科：シロツメクサ、ムラサキツメクサ/アカネ科：ヘクソカズラ/ナス科：ワルナスビ/シソ科：ボタンクサギ、ランタナ/アゼトウガラシ科：ウリクサ/キク科：ヒメジョオン、ウラジロチチコグサ、ヒメムカシヨモギ、ブタナ、ノゲシ、アメリカオニアザミ

7月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「手賀沼の魚を観察しよう」でした。

館内で飼育している魚を見ながら、成魚と稚魚の大きさの違いについてお話をしました。野外では、手賀沼とミニ手賀沼に仕掛けた「もんどり」に入った魚などを観察しました。手賀沼に関連する水草も見ました。暑い中ご参加いただきありがとうございました。



今月の案内人：染谷 実紀



1 マット状に繁茂する特定外来生物のナガエツルノゲイトウ



2 公園の植樹でよく見られるキンシバイ



3 朝、仕掛けておいた「もんどり」の引き上げ



4 今回最も多く観察できたモツゴ



5 赤色で目立つショウジョウトンボ



採集した生き物を見ながら、見分けるポイントや生態についてお話をしました。



8月てがたんの観察生物とルート



オリジナルの仕掛けを持参してくれたお友達もいました。



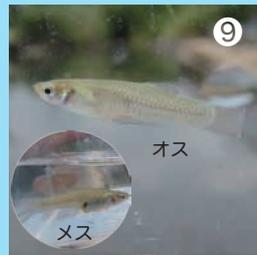
6 婚色も観察できたタイリクバラタナゴ



7 顔の赤い筋模様がまだ見えない幼魚のヨシノボリの仲間



8 親水広場一面に生えていたヤマイ



9 丸みのある尾びれが特徴のカダヤシ



10 仕掛けに入っていたモツゴやツチフキ

今月の鳥 カワセミ (ブッポウソウ目カワセミ科)

カワセミは日本全土で見られますが、本州以南では留鳥、北海道では主に夏鳥です。手賀沼周辺でもよく見かけます。都市化の影響により、1960年頃から生息地や生息数が減少しましたが、1980年代から数が回復して、今では身近な鳥になりました。きれいなコバルトブルーが特徴で、カメラマンに人気があります。

雌雄ほぼ同色ですが、くちばしの下が黒いのがオスで赤いのはメスです。餌は主に魚で、ザリガニ、エビ、カエルなども捕食します。消化しきれないものは、ペリットとして吐き出します。水辺の杭や枝に止まったり、水面上でホバリングをしながら餌をとります。

繁殖期は3月から8月で、一夫一妻で繁殖します。3月上旬からオス同士のなわばり争いが行われ、4月上旬には雌雄の間で求愛給餌や交尾が観察されます。巣は土の崖や壁に、くちばしやあしを使って、50cmから100cm位の横穴を掘ります。巣をつくる場所として盛り土も利用します。



カワセミ(オス)